

才能の開花

2025. 8. 29

隠れた人格が、深層人格だとする。その場合には、自分の中の隠れた人格が開花する仕事を選ぶとよい。隠れた人格が開花する仕事とは、苦手、自分の性格に向いていないと思う仕事である。なぜ、自分の性格に向いていない仕事によって隠れた人格が引き出されるのか。

自分の性格に向いている仕事とは、これまで自分が表に出してきた人格に向いている仕事のことである。一方、自分の性格に向いていない仕事とは、これまで自分が、あまり表に出してこなかった人格を活用しなければならない仕事である。

したがって、苦手な仕事、すなわち自分の性格に向いていない仕事に取り組むことは、必然的に自分の中の隠れた人格を開花させることになる。よく、自分には向いていなかったと思っていた分野で一流になる人がいる。きっと、隠れた人格から才能を開花させたのだろう。

自分の中に様々な人格が開花していくと、他の人の人格を理解できるようになり、そうした人格をもった人の気持ちがわかるようになる。リーダーシップ人格が育つと、たとえフォロワーの立場にあっても、リーダーである上司の心理の機微を理解できるようになる。

多重人格のマネジメントに習熟してくると、相手の人格や状況、心境を瞬時に判断し、その場で最も適切な人格を前に出せるようになる。多重人格のマネジメントを実践すると、自分の中に様々な人格が開花するほか、自然にそれらの人格を静かに見つめる、もう一つの人格、すなわち静かな観察者が生まれる。

我々が自らの人間性を高めようと思うならば、自分の心の中のエゴを適切にマネジメントする必要がある。例えば、虚栄心、不信感、猜疑心、嫌悪感、憎悪、恨み、妬みといった否定的な感情は、すべて心の中のエゴが生み出しているものである。

この厄介なエゴの動きに対処する方法は、ただ静かに見つめる。それだけで不思議なほどエゴの動きは静まっていく。このエゴ・マネジメントが、豊かな人間性を開花させる。心の中のエゴに対しては、小さなエゴを大きなエゴにしたほうがよい。

会社で考えてみる。エゴが、自分だけを見つめているエゴから部下の人生をも包み込んだエゴへ、さらには社員全員を包み込んだエゴへと大きくなる場合がある。小さなエゴを大きなエゴへと育てていくと、自然に、そのエゴは否定的な動きや破壊的な動きをしなくなる。むしろ、大きなエゴは他人の幸せを自分の幸せを感じられるエゴなので周りの人間や会社、社会全体によき影響を与える。

人生において、志や使命感をもって生きていく。自分の人生を、世の中のため、人々の幸せのために使っていく。その志や使命感をもつ。そのとき、自分だけを見つめる小さなエゴが、仲間を、社会を、世界を見つめる大きなエゴへと成長の歩みを始める。